

「東日本大震災追悼」に係る生徒へ向けた校長講話

今から11年前、平成23年3月11日、14時46分に東北地方太平洋沖地震が発生し、大きな揺れが私たちの日常に襲いかかってきました。その直後には、福島・宮城・岩手の太平洋沿岸地域は壊滅的な津波被害を受けました。いわき市でも、たくさんの方が犠牲となられ、尊い命を落とされました。さらに、追い討ちをかけるように福島第一原子力発電所がすべての電源を喪失し、未曾有の原子力災害が起きていることが明らかになりました。

卒業式は、3年生にとって晴れの姿を保護者の方々に披露する記念すべき日です。ですから、過去の辛い震災のことについて、校長式辞の中では直接的には触れません。しかし、あの震災の記憶は風化させてはなりません。多くの犠牲の上に私たちは生かされていることを改めて深く考える必要があります。そして、日本各地から、また世界の国と地域の人々から温かい支援の手が差し延べられたことへの感謝を忘れてはなりません。そのことを東日本大震災から11年が経とうとしている今日、皆さんと再確認しておきたいと思います。

明日、卒業式を終えて、皆さんは自宅に戻っている時間帯になりますが、14時46分、どの場所にいても、そうしたことを噛み締めながら、犠牲になられた方々のご冥福を祈り、追悼の黙祷を捧げましょう。